

アジアのがんUHC

UHC : Universal Health Coverage

社会や疾病構造が変容する中、アジアにおけるがんの社会的影響は大きくなってきています。がんは遺伝的素因や生活習慣だけでなく、人々の社会経済的状況などの文化的背景が大きな影響を及ぼします。アジアではこれまで正確ながんに関する統計をとることが難しく実情が不明でしたが、その統計や実態が明らかになるにつれて、がん医療の実情とがん対策に関する課題がアジア圏内でも大きく格差があることがわかってきました。また近年のゲノム科学の進展によっても、アジアのがんは知見の進む欧米型のがんとは生物学的にも異なる側面があることが明らかになってきており、予防や治療の面でも異なるアプローチが必要とされることがわかってきました。このような背景のもとで、さまざまなIT技術や制度を用いて日本がアジアのがん対策に貢献する動きも活発になってきています。

この講義シリーズでは日本を含めたアジアのがんのサイエンスや社会科学に関する第一線の講師の考えに接しながら、UHC (Universal Health Coverage)の考えに基づいて、アジアのなかで誰も取り残されないがん社会のために日本や各自がどう向き合うべきなのかを学んでもらう機会としたいと考えています。

開講科目名 医学共通講義XXI
時間割コード 4151121
担当教員 東京大学大学院医学系研究科衛生学分野 教授 石川俊平

※医学系だけでなく全研究科の学生が受講可能

時間：水曜日 5限(16:50-18:35)

時期：2026年4月16日(水)～2026年7月9日(水) 計13回

場所：医学部教育研究棟13階講義室 (第5セミナー室)

4/16 オリエンテーション

7/9 学生発表

講師 (順不同) ※順次追加予定

中釜 斉 国立研究開発法人
日本医療研究開発機構(AMED)

石川 俊平 東京大学大学院 医学系研究科
衛生学分野

澤田 典絵 国立がん研究センター
がん対策研究所コホート研究部

松田 智大 国立がん研究センター
がん対策研究所 国際政策研究部

松岡 豊 国立がん研究センター
がん対策研究所 がん医療支援部

佐々木 淳 医療法人社団 悠翔会

梶村 春彦 公益財団法人 佐々木研究所

柴田 龍弘 東京大学医科学研究所
ゲノム医科学分野

河村 大輔 東京大学大学院 医学系研究科
衛生学分野

連絡先：kdais-prm@m.u-tokyo.ac.jp (河村大輔)